老人医療費受給者証
五月中に更新手続きを
七十才になる人もその前月に申請を

七十歳以上の老人を対象とする医療費支給制度は、この一月に実施されて以来すでに四か月、一万二千人のお年寄りが適用をうけています。

この制度の適用を受けるには、所得制限（別表）があります。そのため、毎年一回、前年の所得をもとにして資格の更新をすることになっています。

現在該当者がお持ちの受給者証の有効期限は、六月三十日までですから、次の要領によって更新申請書を提出してください。

提出された申請書を審査のうえ該当者には、六月中に新しい受給者証を交付します。

☆申請期間　五月中

☆手続き方法　申請書に必要事項を記入のうえ、四十七年中の所得が証明される書類（源泉徴収票など）を貼って、市援護課、各地区事務所、各連絡所へ提出ください。申請書用紙は、前記提出先に用意してあります。

新規の申請お忘れなく

医療費支給制度は、満七十歳を迎えた月の初日から適用されるもので、あくまでも、本人の申請によって適用を受けるものです。申請手続きは、満七十歳になる前月までに済ませてください。

ことぶき荘で楽しむ老人たち

所得制限の被扶養者別限度額表

区分		扶養親族0人	〃1人	〃2人	〃3人	〃4人	〃5人	〃6人
本人所得制限	限度額(所得)	430,000円	520,000円	660,000円	800,000円	940,000円	1,100,000円	1,240,000円
(所得税非課税)	(収入)	668,000	780,000	956,000	1,130,000	1,286,000	1,464,000	1,618,000
扶養義務者所得制限	限度額(所得)	4,710,000	4,910,000	5,050,000	5,190,000	5,330,000	5,470,000	5,610,000
(福祉年金と同じ)	(収入)	5,240,000	5,440,000	5,580,000	5,720,000	5,860,000	6,000,000	6,140,000

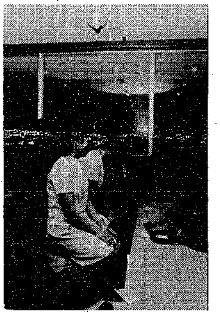
注（収入）は、限度額に、給与所得控除の額を加えて試算したものである。

お手前でシビレる足
ソ連青少年代表団が来港

ソ連青少年代表団一行三十人が四月二十三日夕刻、新潟市を訪れ四日間、滞在しました。

新潟県世界青年友の会が招待したもので、二十四日は、市役所を訪問したあと、日本海タワー、水族館、東洋ガス化学、西港などを見学して、夜は、イチムラ新潟店で開かれた渡辺市長主催のレセプションに出席しました。二十五日朝は、生命共済会館で行なわれた青年交歓会に出席、午後は、自由時間を楽しんでから、越前浜のシャロレー牧場を見学、二十六日早朝、バスで富山へ向いました。

レセプションでは、お手前を、通じない日本語で、身振り手振り教える日本女性、チンプンカンプンのソ連青年男性、女性。風土の違うソ連青年にとっては、座るのが苦手の様子。それでも、とってもなごやかに、愉快に、日ソ青少年の親善を深めていました。



座るのは苦手―
でもとても楽しいわ―
と喜ぶ一行

趣味

★短歌

魚の骨一本一本ぬきとりて
　盲いの夫の膳にそろえり
足なえの吾がため夫が買いくれし
　電気ミシンの月賦終りぬ
手ずれして塗りのはげたる松葉杖
　夜ねる時は枕べに置く
　　　　　　　　大形　田辺信子

手の機能訓練しつゝ都々逸を
　唄う翁の声若々し
　　　　　　　　田町　本間寧

★俳句

裏庭で 摘みし芹の 夕げかな
摘みし芹 油炒めの 色香よし
植木市 行く人来る人 春の暮れ
友に書く 長くなる文 春の暮れ
春の海 岩に打つ波 あたたかき
摘まんとす 土筆だめよと 子は止めり
　　　　　　　　新潟市赤塚佐潟荘内　村口シュ

見てますか，聞いてますか？

標準小売り価格

テレビ・ラジオで毎日放送

★放送時間★

NHKテレビ＝月～土曜，午前11時57分から
BSNテレビ＝月～金曜，午後2時13分から，土曜は午後1時24分から
NHKラジオ＝午後1時30分～2時までの間

今月の発表品目
―1kg当りの数量―

品目	大きさ	数量	内容
かぶ	M	約7個	1個約150g
たけのこ	M	1本	1本約1kg
きゃべつ	中玉	1個	1個約1.2kg
とまと	M	約6個	1個約160g
きゅうり	M	約8～10本	1本約95～120g
なつみかん	M	約2.5個	1個約400g
いちご	2ケース		1ケース500g
バナナ	約6本		1本約180g

※標準小売価格についてご意見、ご要望がありましたら生活課（28－1000番内線375番）へ

結核健康診断

西保健所管内

月日	時間	会場	該当区域
5.11	9：30～12：00 1：00～3：00	関屋田町4 関屋連絡所	関屋田町3・4丁目 関屋新町1・2・3
5.14	9：30～12：00	窪田町万霊地蔵尊	窪田町1・2・3・4
	1：00～4：00	山田町磯部マンション駐車場	附船町2・3、室町1・2、舟見町1・2、入船町4・5・6、窪田町6、山田町1・2、水戸地区
5.16	9：30～12：00 1：00～3：00	礎町3 礎小学校	本町7、東堀前通7上大川前通7・8・9、東・西厩島、秣川岸町1・2南・北多門町
5.17	9：30～12：00 1：00～3：30	稲荷町 舟江図書館	早川町2・3、稲荷町1・2、元下島、艀川岸町、入船町2・3、柳島町3・4、東入船町2・3田町、柳島荘
5.18	9：30～12：00	西保健所	松波町1・2 松林町

離乳食講習会

日時　5月10日
　　　午後1時半～
会場　西保健所
母子手帳を持参ください。

貧血講習会

日時　5月14日　午後1時半～
会場　西保健所
内容　貧血の生理　栄養の話し映画

幼児食講習会

母子手帳・スリッパを持参ください

東保健所

★日時　5月15日午後1時から
★会場　東保健所栄養指導室

西保健所

★日時　5月11日午後1時半から
★会場　西保健所栄養指導室

ウーマン・パワー 意気けんこう

あなたの町から

西地区

老後が楽しみ

「老後のことを考えると憂うつになる」と思いきや、「はやくおばあちゃんになりたい」―というグループがある。内野町四区の婦人グループ〝まどか(円)〟がそれだ。

「金と健康があれば不自由はない、というが、孤独だけはさけられない。心おきなく話し合える友だちをつくっておきたい」（中山文子さん）のが会結成の動機。

「会員は二十人。年をとってから、一日一人ずつ訪問しても月に二十日。それを思うと、寂しさどころか、つい楽しくなります。」（小林文子さん）と声がはずむ。

社会から疎外されないために、勉強会にも力を入れている。新聞を切り抜いて持ち寄ったり、読書会をやったりする。「共通の場に参加するには、日頃家庭でも勉強しなければならないので、自分自身の向上のために、意義が大きい」（岡本みゆきさん）―とのこと。

これからは、年月をかけてもいいから、何か一つ充実したものをやってみたい、と今年から源氏物語の原文読破に挑戦しようと張り切っている。まだまだ、お年寄りになるのは先のことだ。参考までに平均年齢は四十五歳。

あなたの町から

北地区

栄養改善を目指して

「北地区の栄養管理は私たちにおまかせあれ」―張り切っているグループがある。その名は〝月曜会〟。松浜在住の婦人グループだ。

昭和三十九年に実施された栄養教室に受講したのが会結成のきっかけ、というから、かれこれ十年になる。

この十年間で、会員は一人、二人と減り、現在十一人だが、活動の献立は豊富になってきている。「松浜地区は、朝からさしみを食べている家庭が随分ある反面、緑の食品が断然少ない」―と偏食の傾向を指摘する。と同時に、〝主婦の昼食が簡素すぎる〟と指摘している。

年一回（二日間、四会場）保健所から巡回してくるキッチンカーによる料理講習会の、事実上の指導役を引き受けるかたわら、各種講習会で指導したり隣り近所の茶飲み話しにそれとなく栄養の話しを持ち込み、主婦へのPRに懸命だ。一方、食品工場の見学や学習会を定期的に行ない、自己研修もおこたりない。

同会の鈴木静江さん、藤井真佐子さん、小川イトさんは、口をそろえて、「会員をもっとふやし、栄養というテーマを、松浜地区全体のものとするよう頑張りたい」―とあすに向かって張り切っています。

あなたの町から

南地区

ころばぬ先の杖

「交通事故ゼロの叫びが全市的に高まっている中で、その運動を地域ぐるみで実践しているグループがある。両川地区交通安全母の会である。

「両川地区は、県道三条・小須戸線の交通量が激しいくらいで、比較的安全といえる。しかし、いつまでもこのままの状態が続くとは思われない。〝ころばぬ先の杖〟で今から徹底した交通安全意識を持つ必要がある」―と、佐藤レイ会長は語る。

同会のおもな活動は、月四回の街頭補導、随時行なう交通教室、それに、二か月に一回発行する機関紙・交通安全だよりの編集などだ。

街頭補導は、一千人の婦人が当番制で行なう。「街頭補導に立ってみると歩行者に対しても、ドライバーに対しても、これまで気づかなかったようなことに気づく。交通安全に対する意識がはっきり自分のものになるのだ」―外への呼び声だけではなく、実践を通じて個々の内から湧いてくる意識を育てよう、というねらいだ。

〝交通安全だより〟へは多くの住民が寄稿し、全住民が読み、住民のものとなっている。

同会は、先月、関東管区交通安全協会からの表彰をはじめ、県・市からも表彰を受けている。

あなたの町から

東地区

婦人の手で保育園を設立

どこの町内にも、自治会組織の中に婦人部を置くのが一般化している。なかには、単なる親睦団体的な婦人部も多いと聞くが、ここに紹介する米山自治会婦人会（藤巻キソ会長）は、自治会とタイアップして、積極的な活動を続けている一つである。

発足して十三年。「これまで、町内の和を求めて、いろんなことをやってきたが、私たちの努力が実って、町立米山保育園が出来たこと―これが一番忘れられない仕事のひとつだ。」―藤巻会長は胸をはって語る。

米山保育園は、同婦人会、町内会が一丸となって、関係方面に働きかけるかたわら、資金も内部で調達し、四十年に設立した。現在も同町内会が管理運営し、百五十人の園児が楽しく毎日を過ごしている。

子供をすくすく育てよう―と、補導面でも、婦人会の力は大きい。昨年から、婦人会が主催して、米山公園での子供植樹を実施した。「子供は与えられたものを、可愛がらないが、自分たちが自ら植えてみると、愛情をもって見守る」―がねらいなのだ。

社会の多様化とともに、婦人個々も多様化し、まとまりにくくなるのが例だが、老若を問わず、うちとけあっているのが同会の発展の秘訣のようだ。